

# 動物園

## よもやまばなし



13

動物調整・工事・樹木管理担当  
かんの たつや  
**菅野達也** 主任技術員

### アジアゾウのイズミから、レッサーパンダへ

桐生が岡動物園では、平成29年まで、メスのアジアゾウを飼育していました。「岡公園のイズミちゃん」と呼ばれ、みんなからとても慕われていました。イズミは、昭和39年に、当時9歳で入園し、体高が2メートルほどだったそうです。



昭和39年入園時の様子

イズミは、来園者に見える愛さようのある姿とは裏腹に、飼育員に向ける、人を観察するかのような鋭い視線が印象的でした。

52年間という長い年月を桐生が岡動物園で過ごし、61歳で亡くなった時、国内のアジアゾウのメスのなかで、最長寿でした。



晩年のイズミ

亡くなった後、献花台やメッセーじカードの記入場所を設けたところ、ゾウ舎の室内観覧室に飾りきれないほどたくさんのお花やメッセーじカードが寄せられました。メッセーじの中には、「親子三代で会いに来ていました!」というものも多く、イズミと来園者のつながりの強さを改めて実感した出来事でした。

その後、ゾウ舎は解体され、跡地にはレッサーパンダ舎が建設されました。レッサーパンダは、暑さに強くない動物のため、桐生の猛暑を考慮し、冷房の大きく室内展示場を広くとった動物舎になっています。

レッサーパンダは、全国の動物園が協力して血統管理がされているため、現在飼育している4頭は、北は北海道、南は静岡県から、はるばる桐生までやってきてくれました。愛らしい外見や草から、新たな動物園の顔として人気を得ています。

3月には新しいカピバラ舎も完成するなど、時代とともに当園も少しずつ変化しています。そうしたなか、より一層、地域に根差した動物園となれるよう、尽力できればと思います。問い合わせは、ばたけ山田製作所桐生が岡動物園(☎224442)

タオタオ(メス)



新カピバラ舎越しのレッサーパンダ舎

## パチリいい顔 桐生っ子

市内に居住する3歳まで(申し込み時)の桐生っ子を募集します。

申し込み = Eメール(miryoku@city.kiryu.lg.jp)にお子さんの氏名(ふりがな)、生年月日、住所、保護者氏名、電話番号を記入し、お子さんの画像データを添付のうえ、魅力発信課(☎46-1049)へ。



まつもと けん 松本 健ちゃん  
1歳  
(宮本町一丁目)



しんじょう なおより 新庄 直頼ちゃん  
1歳2か月  
(相生町二丁目)



すなが おと 須永 音灯ちゃん  
9か月  
(相生町五丁目)

広告